

スケッチはメキシコ記念塔



岩和田港を背景に御宿海岸の砂浜

紀伊・房総

くろしお物語

◇14◇

千葉外房線の御宿駅 裾を二頭のラクダが歩
を降りて真っ直ぐ海岸 向かうと、左側に小
高い砂丘があり、その

さによって作詞され
た記念像である。その
後方に白く輝くメキシ
コ記念塔が見える。紀
州漁民が漁労した網代
湾と岩和田港を通して
メキシコ記念公園に登
った。記念碑に次の説
明があった。

黒潮遭難ドン・ロドリゴ物語

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

「慶長14(1609)年9月、前フィリピン諸島長官ドン・ロドリゴ・デ・ビデロ・イ・ベーラコスが任期を終えて、マニラからメキシコに帰還する途中暴風に遭い、乗船していたサンフランシスコ号(スペイン船)は岩和田海岸沖で座礁した。駆けつけた岩和田の民たちは乗組員たちを村の大宮寺に滞在させ

て食糧や衣料を与え、乗組員373名中317名が救助・保護された。当時の大多喜城主本多出雲守忠朝はロドリゴを大多喜城に招いた。城主の計らいなどもあり、一行は大型帆船で送還された。これが日本とスペイン&メキシコ修好の契機となり、昭和3(1928)年、メキシコ記念塔が建立され、「日・西・墨三国交通発祥記念之

救助が結んだ外交

「慶長14(1609)年9月、前フィリピン諸島長官ドン・ロドリゴ・デ・ビデロ・イ・ベーラコスが任期を終えて、マニラからメキシコに帰還する途中暴風に遭い、乗船していたサンフランシスコ号(スペイン船)は岩和田海岸沖で座礁した。駆けつけた岩和田の民たちは乗組員たちを村の大宮寺に滞在させ、米、ナス、大根、魚をし、村民の献身的な救

て食糧や衣料を与え、乗組員373名中317名が救助・保護された。当時の大多喜城主本多出雲守忠朝はロドリゴを大多喜城に招いた。城主の計らいなどもあり、一行は大型帆船で送還された。これが日本とスペイン&メキシコ修好の契機となり、昭和3(1928)年、メキシコ記念塔が建立され、「日・西・墨三国交通発祥記念之